

令和7年度 第2回 エルシーバイ放送番組審議会

■開催日時 令和7年9月12日（金） 午後1時30分～午後3時00分

■場 所 エルシーバイ株式会社 本社会議室

■出席者 委員総数 5名

出席委員	市川 純章	委員
	河西 滋子	委員
	赤沼 喜市	委員
	井上 淳哉	委員
	菊池 大介	委員

放送事業者側 (9名)

常木 真次	代表取締役社長
武居 賢次朗	専務取締役
堀川 久志	放送制作部 部長
吉田 和晃	放送制作部 コンテンツ制作課長
小池 利幸	放送制作部 報道制作課長
小池 嘉則	放送制作部 放送コミュニケーション課長
早川 達朗	放送制作部 編成課長
田中 俊行	放送制作部 報道制作課
内藤 由里子	事務局

■議 事

1. 審議事項

【審議番組】 特別番組『富士見町長選挙 2025 開票速報』

<委員からの主な意見>

□番組を評価する意見

- ・選挙の戦い方も含めて、それぞれの候補者の特徴が良く分かった。
- ・渡辺さんは SNS の活用されており、昔とは異なる選挙のやり方であった事が分かった。
SNS などが取り入れられた事が投票につながったように感じた。
- ・オープニングから近代的な映像で良かった。
- ・両陣営の動きがない映像が短くて良かった。
- ・中継が減って VTR が増えてバランスが良かった。
- ・素材の豊富さもあり、どのような人が立候補して、何を謳って、何を押して今日に至った、という流れが的確に並べられていた。事前の取材があつての当日の見え方だった。
- ・作る側の熱量をすごく感じた。候補者、支援者、街の方の熱量にも通ずるが、それをとことん伝える意気込みを感じた。
- ・コンテンツをもっと活用出来ないかと思った。若者や子供達に番組のダイジェストを観せたら、知っている景色が出たり、顔が見えたり、自分事に一気に惹き込んで、学校で政治の勉強をしたときに、大人たちが泣いたり笑ったり真っ黒になりながらやっている。地域の熱量が教材として伝わるのかなと思った。このようなコンテンツが地域の為に使われていく事も住民として期待したいと感じる内容だった。
- ・事前の取材を纏めた VTR が当日流れたことは、すごく良いと思った。
- ・地元密着ならではの強みが出ていた。
- ・長丁場で情熱をかけた番組づくりだったと思う。
- ・長野日報と連携ながら、程よい距離でゴールに至った感じがよく伝わった。

□番組を良くするための意見

- ・スタジオの中に、候補者の顔がなかったので少しあつた方が良かった。
- ・座席に出演者の氏名の表示があると良かった。
- ・出口調査はどのような形で収集して、中継で出ている開票はどういう順番で行われているか、フローが出てくると、観ている方も何がいま行われていて、選挙の仕組みがわかる。
- ・開票結果が出たあとに、画面の右下に当選者の「顔と名前」の表示があると良かった。
- ・「戦い」・「陣営」、「勝った」・「負けた」という形で選挙を捉えることに違和感を感じた。昭和の匂いが漂う演出だった。
- ・選挙だけにエネルギーを注いで終わりではなく、色々な事が議論されていることも同じ熱量で追いかけても良い気がする。

>>放送事業者側の補足)

- ・この放送においては、長野日報と協力して新しい形での選挙の伝え方を試みたというところもあり、自分たちも何ができるのかというところを探りながらの部分が多かった。委員から頂いた意見を10月に控えている辰野町長選挙にも活かせるようにしたい。
- ・有権者に投票して頂きたいというところを、一つ一つのコーナーで取り上げさせて頂き、集大成という形にした。関心を持って頂く機会を増やしていかなければならないという事を今回の選挙で感じた。

□その他

- ・年代別の投票率、人口分布からすると渡辺さんは負けていたが僅差で勝った。出口調査で比率しか言えなかった。おそらく年代の上の人は、選挙に行かなかったかと思う。
- ・岐路に立たされている時代の転換点という意味で、人口減少に向かって仕組みづくりから変わらないといけないと思う。
- ・言葉の使い方をもう少し意識出来ないかと思った。
住んでいる人たちが当事者で、自分たちが意思決定をしながら街づくりをしていくというところに気づいていくようなことは、報道が使っている言葉で変わっていくような気がする。
- ・選挙の放送は難しさがあると思う。撮った時の映像の印象で、選挙を左右してしまう事もあると思う。
- ・今回の選挙は世の中的に転換点となる選挙で、ネット上などで話題となっていると思う。
公約は、掲げても結局従前の体制で何も変えられないジレンマが続く中で、今回の選挙も果たして今までと同じ結果になるのか、それとも新たなきっかけになるかという事が問題提起として出ているのかとかそういう方が面白いかなと思った。
- ・いくら新しい事を言っても結局変えられないで終わるパターンがほぼ100%に近い状態。そこを今回の選挙でどう変えられるのか、その後なども見てみたいと思う。
- ・若年層にとっては、殿様同士の戦いは距離が空いてしまう感覚。観戦姿勢になってしまうような言葉だと思う。
- ・「勝ち負けは決まっても、その後は一緒に富士見町を」というニュアンスは、住んでいる人達にとっては年代関係なく、伝わる言葉の使い方とか、たてつけて一つ可能性があるかと思った。
- ・取材のその後の使い方について、地域のアーカイブとして地域密着でこれだけたくさんの素材を集めているところの強みとして地域に還元出来る判断材料の一つになると感じた。
- ・渡辺さんは、地域おこし協力隊から来ている流れで、その視点から光を当てても良いのかと思った。
- ・渡辺さんは、富士見森のオフィスの初期スタッフなので、それをきっかけにコワーキング森のオフィスって何だろうと見るのも良いのではないか。
- ・渡辺さんが町長になられたという事は、女性にとって嬉しい事で良かった。
移住されてきた方が住民と一緒に助けて頂いて選挙が進んで当選したという事は、渡辺さんは人柄が良いと思った。
- ・渡辺さんの挑戦がどんな風になるか期待したい。女性を意識されているが、町長は女性も男性もなく、やっぱり人間的なことでいかないといけないと思う。

- ・事前のストレイトや特集など事前の取り上げ方は過去より気合が入っているか

>>放送事業者側からの回答)

今回は新人同士の選挙で、取材させて頂ける機会が多かったので気持ちも入った。いつも同じようにできるとは限らない。今回は選挙戦が始まる前から取材出来た。

- ・選挙戦とならない場合は、何も番組にしないのか

>>放送事業者側からの回答)

- ・調査担当には、LCV からみた課題を何か1つは取り上げる。

現職が前回公約で掲げたことが達成出来ているかどうか、今回の選挙で何を掲げて出ているかというところに着目して取り上げても良いと感じた。

以上